

CASBEE広島 2013年追補版Ver.2(BPI/BEI対応) 広島経済大学(仮称)明徳館		用途等で評価が不要となる項目について は、自動的に網掛けが入ります		■使用評価マニュアル CASBEE広島 2013年追補版				
スコアシート 実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数			
Q 建築物の環境品質								3.5
Q1 室内環境								3.3
1 音環境								3.2
1.1 騒音		3.2	0.15	-	-	-	-	
1.1.1 室内騒音レベル		3.0	0.40	-	-	-	-	
1.1.2 設備騒音対策		3.0	1.00	3.0	-	-	-	
1.2 遮音		3.0	0.40	-	-	-	-	
1.2.1 開口部遮音性能		3.0	0.30	3.0	-	-	-	
1.2.2 界壁遮音性能		3.0	0.30	3.0	-	-	-	
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	0.20	3.0	-	-	-	
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	0.20	3.0	-	-	-	
1.3 吸音	床はタイルカーペット、天井は岩綿吸音板を標準として採用。	4.0	0.20	3.0	-	-	-	
2 温熱環境		3.0	0.35	-	-	-	-	3.0
2.1 室温制御		3.0	0.50	-	-	-	-	
2.1.1 室温		3.0	0.60	3.0	-	-	-	
2.1.2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-	-	-	
2.1.3 外皮性能		3.0	0.40	3.0	-	-	-	
2.1.4 ゾーン別制御性		3.0	-	-	-	-	-	
2.1.5 温度・湿度制御		-	-	-	-	-	-	
2.1.6 個別制御		-	-	-	-	-	-	
2.1.7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-	-	-	
2.1.8 監視システム		-	-	-	-	-	-	
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	-	-	-	
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	-	-	-	
3 光・視環境		3.9	0.25	-	-	-	-	3.9
3.1 昼光利用		3.4	0.30	-	-	-	-	
3.1.1 昼光率		3.0	0.60	3.0	-	-	-	
3.1.2 方位別開口		-	-	3.0	-	-	-	
3.1.3 昼光利用設備	昼光センサー付器具の採用。	4.0	0.40	3.0	-	-	-	
3.2 グレア対策		4.0	0.30	-	-	-	-	
3.2.1 照明器具のグレア		-	-	-	-	-	-	
3.2.2 昼光制御	全周に庇およびブラインドを設置。	4.0	1.00	3.0	-	-	-	
3.2.3 背り込み対策		-	-	-	-	-	-	
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	-	-	-	
3.4 照明制御	リモコン操作により、1作業単位で照明制御が可能。	5.0	0.25	3.0	-	-	-	
4 空気質環境		3.2	0.25	-	-	-	-	3.2
4.1 発生源対策		3.0	0.50	-	-	-	-	
4.1.1 化学汚染物質		3.0	1.00	3.0	-	-	-	
4.1.2 アスベスト対策		-	-	-	-	-	-	
4.1.3 ダニ・カビ等		-	-	-	-	-	-	
4.1.4 レジオネラ対策		-	-	-	-	-	-	
4.2 換気		3.0	0.30	-	-	-	-	
4.2.1 換気量		3.0	0.33	3.0	-	-	-	
4.2.2 自然換気性能		3.0	0.33	3.0	-	-	-	
4.2.3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33	3.0	-	-	-	
4.2.4 給気計画		-	-	-	-	-	-	
4.3 運用管理		4.0	0.20	-	-	-	-	
4.3.1 CO ₂ の監視		3.0	0.50	-	-	-	-	
4.3.2 喫煙の制御	全館禁煙運用。	5.0	0.50	-	-	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	-	-	3.6
1 機能性		3.9	0.40	-	-	-	-	3.9
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	-	-	-	-	
1.1.1 広さ・収納性		3.0	-	3.0	-	-	-	
1.1.2 高度情報通信設備対応		3.0	-	3.0	-	-	-	
1.1.3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性		4.0	0.30	-	-	-	-	
1.2.1 広さ感・景観		3.0	0.50	3.0	-	-	-	
1.2.2 リフレッシュスペース		3.0	-	-	-	-	-	
1.2.3 内装計画	主要用途部分について、内観パースにより検証を行い、計画。	5.0	0.50	-	-	-	-	
1.3 維持管理		5.0	0.30	-	-	-	-	
1.3.1 維持管理に配慮した設計		5.0	0.50	-	-	-	-	
1.3.2 維持管理用機能の確保		5.0	0.50	-	-	-	-	
1.3.3 衛生管理業務		-	-	-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.2	0.31	-	-	-	-	3.2
2.1 耐震・免震		3.0	0.48	-	-	-	-	
2.1.1 耐震性		3.0	0.80	-	-	-	-	
2.1.2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.4	0.33	-	-	-	-	
2.2.1 軀体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-	-	-	
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.23	-	-	-	-	
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09	-	-	-	-	
2.2.4 空調換気ダクトの更新必要間隔		5.0	0.08	-	-	-	-	
2.2.5 空調・給排水配管の更新必要間隔		5.0	0.15	-	-	-	-	
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-	-	-	
	ダクトはSUS製またはガルバ製を採用。							
	ほぼBを採用し、Eは不採用。							

2.4 信頼性	1 空調・換気設備	3.6	0.19	-	-	
	2 給排水・衛生設備	3.0	0.20	-	-	
	3 電気設備	5.0	0.20	-	-	
	4 機械・配管支持方法	3.0	0.20	-	-	
	5 通信・情報設備	4.0	0.20	-	-	
		3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性		3.5	0.29	-	-	3.5
3.1 空間のゆとり		4.6	0.31	-	-	
1 階高のゆとり	階高4.2mにて計画。	5.0	0.60	3.0	-	
2 空間の形状・自由さ	耐震壁を集中的に設け、フレキシブルな構造計画を実現。	4.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり		3.0	0.31	3.0	-	
3.3 設備の更新性		3.2	0.38	-	-	
1 空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-	
2 給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-	
3 電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
4 通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
5 設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-	
6 パックアップスペース	屋外機置場他にリプレイススペースを確保。	4.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)		-	0.30	-	-	3.9
1 生物環境の保全と創出		3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮	既存建物群と調和した色彩計画。既存樹木を活かした計画。	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮		3.5	0.30	-	-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	既存樹木・植栽を活かした計画。	4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー		-	0.40	-	-	3.7
1 建物の熱負荷抑制		3.0	0.30	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用		3.5	0.20	-	-	3.5
2.1 自然エネルギーの直接利用	階段室上部に有圧扇を設置し、温度差換気を促す計画。	4.0	0.50	-	-	
2.2 自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化		4.4	0.30	-	-	4.4
集合住宅以外の評価(ERRによる評価)	#VALUE!	4.4	-	-	-	
集合住宅の評価		5.0	-	-	-	
4 効率的運用		4.0	0.20	-	-	4.0
4.1 モニタリング	BEMSを導入し、見える化を図る計画。	4.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	施主側の維持管理体制が明確に取られている。	4.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル		-	0.30	-	-	3.3
1 水資源保護		3.4	0.15	-	-	3.4
1.1 節水	節水型便器、擬音装置を採用。	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-	
2 雜排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減		3.5	0.63	-	-	3.5
2.1 材料使用量の削減		3.0	0.07	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.25	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.21	-	-	
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.21	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	設備機器は単独で支持を取り、個別に更新可能な計画。	5.0	0.25	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避		3.0	0.22	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避		3.0	0.68	-	-	
1 消火剤		-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3 冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境		-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮		3.5	0.33	-	-	3.5
2 地域環境への配慮		3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.2	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2 污水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制		4.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮		3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
1 騒音		3.0	0.33	-	-	
2 振動		3.0	0.33	-	-	
3 悪臭		3.0	0.33	-	-	
3.2 風害・砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3 日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制		3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	